

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0970102810		
法人名	株式会社ウェルフェアシステム		
事業所名	グループホームハイブリッジ		
所在地	栃木県宇都宮市若松原1-11-10 (電話) 028-688-5181		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成21年11月26日	評価確定日	平成21年12月24日

【情報提供票より】(平成21年10月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	7 人	常勤5人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算6.5人	
	7 人	常勤5人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算6.5人	
	7 人	常勤5人(うち兼務1人), 非常勤2人, 常勤換算6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2階建ての1~2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	63,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費—18,000円	
			・保守料—5,200円	
敷 金	無		・寝具リース料—6,200円	
			・ベッドリース料—4,800円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		685 円	

(4) 利用者の概要(平成21年10月25日現在)

利用者人数	27 名	男性	7 名	女性	20 名
要介護1	12 名	要介護2	9 名		
要介護3	6 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山口クリニック・佐貫歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当ホームは、平成16年に埼玉県に本部を置く株式会社運営の3ユニットのグループホームとして開設されている。市内の幹線道路からやや奥まった住宅やアパートが立ち並ぶ住宅地の一角に位置し、同一敷地内には「地域交流センター」もあり、地域住民やボランティアと共にカラオケやレクリエーションを楽しむなど、地域との交流の場になっている。家族会も発足しており、ホームで行事に参加を呼びかけるなど、ホームと家族との繋がりも大切にしている。全職員は入居者に対し常に尊敬の念を持ちながら家庭的な雰囲気づくりに努めているホームである。</p>
---

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果については、職員との話し合いや運営推進会議にて報告を行うなど、意見や助言をもらいながら改善に向けた取り組みに役立っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、各フロア(ユニット)毎にフロア長が中心となってまとめ、最終的に管理者がまとめあげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には、家族代表、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員等をメンバーに2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの活動状況の報告や各委員から意見や助言を出してもらい、それらを運営に役立っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会があり、ホーム行事の開催時には積極的に家族へ参加を呼びかけ、家族との接点づくりに努めている。家族の面会時には必ず声掛けを行い、意見や要望等を聴くようにしている。家族から意見や要望等が出された場合には、職員間で話し合い解決や改善を図っている。入居者の健康状態等については、家族がホームへ面会に訪れた際や電話で報告している他、毎月、活動状況報告書を送付し報告している。預かり金は、出納帳で管理し領収書とともに利用請求時に送付している。職員の異動については面会時に紹介したり、活動状況報告書にて報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭りへの参加や近所の子ども達がホームに遊びに来るなど交流が図られ、同一敷地内にある「地域交流センター」においては、定期的にボランティアの訪問もあり、交流が行われている。自治会にも加入しており、自治会での役割等は無いが、自治会はホームに協力的であり、良い関係作りができています。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として、「明るく元気に挨拶、いつも笑顔でゆとりの介護」を掲げており、また、「利用者のプライバシーが守られ、ご家族との語り合いも大切に環境の提供」をホームの運営方針としてつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、毎日の申し送りや日々のケアの中や月1回の全体会議等で理念や運営方針について確認し合い、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りへの参加や近所の子ども達がホームに遊びに来るなど交流が図られ、同一敷地内にある「地域交流センター」においては、定期的にボランティアの訪問もあり、交流が行われている。自治会にも加入しており、自治会での役割等はないが、自治会はホームに協力的であり、良い関係作りができています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価結果については、職員との話し合いや運営推進会議にて報告を行うなど、意見や助言をもらいながら改善に向けた取り組みに役立っている。今回の自己評価は、各フロア（ユニット）毎にフロア長が中心となってまとめ、最終的に管理者がまとめあげている。		

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、家族代表、民生委員、自治会長、地域包括支援センター職員等をメンバーに2ヶ月に1回開催している。会議ではホームの活動状況の報告や各委員から意見や助言を出してもらい、それらを運営に役立てている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市担当職員に制度上の相談や運営状況の報告等を必要に応じて行っている。	○	ホームとしては事業所の実情や取り組み状況を継続的に市に伝えて行きたいと考えていることから、市との連携を更に深めることに努め、サービスの向上に向けた取り組みに期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の健康状態等については、家族がホームへ面会に訪れた際や電話にて報告している他、毎月、活動状況報告書を送付し報告している。預かり金は、出納帳で管理し領収書とともに利用料の請求時に送付している。職員の異動については面会時に紹介したり、活動状況報告書にて報告している。	○	毎月の活動状況報告書に入居者の写真等を活用したり、ホームでの行事や職員の紹介等を掲載したホーム独自の広報誌の作成を行う等、更に家族にホームや入居者の情報を定期的に知らせる取り組みに期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会があり、ホームの行事の開催時には積極的に家族へ参加を呼びかけ、家族との接点づくりに努めている。家族の面会時には必ず声掛けを行い、意見や要望等を聴くようにしている。家族から意見や要望等が出された場合には、職員間で話し合い解決や改善を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間のみだが、ユニット間の異動も殆ど行っていない。入居者、職員ともにユニット間での交流があり、事業所全体での顔馴染みの関係ができています。職員の担当制を取り入れており、離職で職員が変わる時などには同じユニットの職員を担当させるなど、入居者へのダメージが無いように配慮している。		

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修には継続的に参加をしている。外部研修に参加した職員は報告書を作成し、伝達講習により職員間で知識の共有を図っている。月1回の全体会議では、テーマを決めてユニット毎に学習する機会をつくっている。管理者は日々のケアの中での気づきについて、その都度職員への確認に努めている。	○	今後も職員の職種や経験年数等により、外部研修への積極的な参加支援や内部研修の充実を図っていくことに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は近隣ホームとは面識程度の付き合いであり、頻繁な交流は行われていないが、同法人の県外グループホームの管理者との交流はあり、電話での相談や月1回程度の意見交換を行い交流を図っている。	○	管理者は、今後近隣の同業者との交流を深めていきたいと考えていることから、市内や周辺地域の同業者との関係づくりに努めると共に職員による相互訪問等によりサービスの質を向上させていく取り組みに期待したい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込前には本人、家族にホームの見学をしてもらい、十分な説明や意見交換を行い、不安や混乱が生じないように配慮してサービス開始に繋げている。また、入居後は家族とも連絡を取り合い、本人及び家族が希望に添ったケアが出来るよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や配膳、後片付け、折り紙、ぬり絵など入居者のできることに配慮しながら職員と一緒にしている。職員は入居者から昔の生活や経験談等の会話を通して学ぶ事も多く、共に支え合う関係を築いている。		

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における日々の関わりの中で入居者への声掛けや言葉や表情などから一人ひとりの思いを把握している。意向の表出が困難な場合には、過去の生活歴や家族からの協力を得て意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族とも相談し、意見や要望等を踏まえて介護計画を作成している。また、申し送り時の職員の気づきや提案を介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月を目安に見直しをしている。入居者の状態に変化があったとき等には、本人、家族等とも話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の緊急時対応や相談援助など、本人や家族からの要望にはできるかぎり状況を把握しながら、柔軟な対応に努めている。		

グループホームハイブリッジ


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。ホームの協力医は月2回の定期的な往診があり、24時間連絡ができる体制になっている。急な容体の変化時の対応については、職員が同行して協力医療機関で適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは重度化・終末期の対応は困難であるとしており、要介護度が上がった時は家族と相談を行い転居先について話し合いを行っている。退居時には、転居先へ入居者の情報提供を行い、入居者にダメージがないように配慮している。	○	重度化や終末期の対応は家族との相談によって転居先の支援を行っているが、入居者及び家族の気持ちの変化や思いに注意しながら、安心してサービスが利用できるように、なるべく早期から話し合いの機会を作るなどの取り組みに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりのプライバシーに配慮しつつ、日々の声掛けや対応を職員間で共有し対応している。個人の記録等はスタッフルームの鍵のかかる場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、日課は特に決めていない。入居者一人ひとりの希望や体調に配慮しながら支援している。訪問時にも居室で過ごしたり、リビング兼食堂で職員と談笑する入居者の姿が見られた。		

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が作成した献立表により各ユニットのキッチンで職員が調理している。職員は入居者のできることに配慮し調理や後片付けを一緒に行っている。食事の前には職員がその日の献立を紹介し、検食として1名が入居者と同じ物を食べ、その他職員は弁当を持参している。	○	家族的な雰囲気を大切にしているということから、できるだけ職員全員が入居者と同じものを楽しく食べながら食事に関する支援がより一層図られることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決まっており、週2日は入浴してもらうようにしている。午前中に入浴が多いが、入居者からの希望があれば毎日の入浴や夕方、夜間時の入浴も可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ、掃除、料理の下ごしらえや後片付け、編み物、裁縫、折り紙、草花への水やり、買い物、散歩等の機会を設け、役割や楽しみごとの支援をしている。また、隣の地域交流センターを活用してカラオケを楽しんだり、ボランティアとの交流の機会も設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の機会は少ない状況にあるが、気候や入居者の体調に配慮しながらホームの周辺への散歩や買い物に行っている。月1回のドライブや外食を兼ねた外出の機会を設けている。	○	入居者が自由に外に出る雰囲気づくりや日常的な散歩や行事的な外出の機会のあり方などについて、更に検討することに期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は入居者の安全性を考慮して施錠しており、入居者が自由に外出できる構造にはなっていない。家族には説明をして了解の同意を得ている。	○	玄関の施錠を含め、入居者の安全と自由の確保について苦心をしているが、今後、更に自由な暮らしの確保についての話し合いや工夫を重ねていくことに期待したい。

グループホームハイブリッジ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを基に、消防署の指導により年2回の避難訓練を実施している。今年から地域住民に避難訓練の参加協力を呼びかけた。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立の作成は外部の管理栄養士に委託している。食材は業者から毎日配達してもらっている。食事摂取量、水分摂取量は日誌にて記録しており、職員間で確認ができるようにしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング兼食堂には職員と入居者で作成した折り紙やぬり絵が飾られており、訪問時にはクリスマスの飾り付けの準備を行っていた。畳やテーブル、椅子やソファなどで入居者は思い思いに過ごせるようになっている。不快な音や光、空気の日どみ等もなく快適な空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者の馴染みのものが自由に持ち込まれている。写真や花などが飾られ、今まで着ていた洋服も数多く持ち込まれており、入居者が居心地良く暮らせるよう家族の協力を得ながら支援をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。